

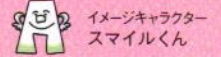
あまめまスマイル委員会(天沼中学校区地域教育推進協議会)は、地域内にある組織・活動のネットワークの広がりを活かし、地域社会全体で子どもの育成や教育に取り組む協議体です。0歳から15歳までの子どもの育成や教育をコミュニティの問題として考え、地域の教育・子育てにかかわる課題に主体的に取り組んでいます。

AMANUMA SMILE NEWS

あまめまスマイルニュース



令和7年度3月31日発行
天沼中学校区
地域教育推進協議会
会長 田中一恵
問合せ 天沼児童館
電話 3398-8717



"AMANUMA SMILE COMMITTEE"

AMANUMA JUNIOR HIGH SCHOOL DISTRICT REGIONAL EDUCATION PROMOTION COUNCIL

AMANUMA SMILE NEWS

PUBLISHED IN MARCH 2026

AMANUMA JUNIOR HIGH SCHOOL

新しい一歩、つながる学び

沓掛小学校 校長 浅見優子

春のやわらかな光に包まれ、校庭の木々にも新しい芽吹きが感じられる季節となりました。新年度を迎え、進級・入学した子どもたちは、新しい教室、新しい友達、新しい学びに胸をふくらませています。その表情には、期待と同時に少し緊張も見られますが、その一つ一つの気持ちが、これからの成長を支える大切な原動力になると感じています。

沓掛小学校では、この数年間、「子どもたちにとって、本当に意味のある学びとは何か」「地域の中で学校が果たすべき役割とは何か」を問い続けてきました。特にこの4年間は、天沼中学校区地域教育推進協議会の活動を通して、学校・家庭・地域がどのように連携し、子どもたちの育ちを支えていくことができるのかを考え、試行錯誤を重ねてまいりました。取り組みは決して平坦なものではなく、時には立ち止まりながら考え直すこともありましたが、その都度、多くの方々の支えと協力により、一歩ずつ歩みを進めることができました。

令和7年度には、その成果の一つとして、「ほんあまえんにち」の機会を活用し、沓掛小学校区の通学路調査を実施しました。子どもたちは、普段何気なく通っている道を改めて見つめ直し、「ここは見通しが悪い」「この交差点は車が多い」といった気づきを、自分たちの言葉で共有しました。そして、学区域マップにシールを貼り、安全マップを完成させました。この活動を通して、子どもたちは地域への愛着を深めるとともに、自分たちの安全を自分たちで考える主体的な姿勢を伸ばしてきました。

また、沓掛小学校地域子育てネットワークから出された、一方通行である南側道路を逆走する車への懸念についても、天沼中学校区地域教育推進協議会の皆様が中心となり、関係機関への働きかけを継続して行っています。学校だけでは解決が難しい課題について、地域の力を結集し、子どもたちの安全を守ろうとする姿勢は、私たち教職員にとっても大きな励みとなっています。

このように、子どもたちの学びと、それを見守り支える地域の取り組みが結びつき、地域の安心・安全へとつながっていく実践が、少しずつ形となって表れてきました。一つ一つの活動は小さなものであっても、それを積み重ねてきた4年間の歩みは、確かな実感と手応えとして残っています。そして何より、こうした経験が、子どもたちの「自分たちは地域の一員である」という意識を育てていることを嬉しく思います。

令和8年度も、「安心して挑戦できる学校」を教育活動の基盤に据え、一人一人の「やってみたい」「挑戦してみたい」という思いを大切にしながら、子どもたちとともに歩んでまいります。失敗を恐れず、互いに認め合い、支え合う中で、自分の力を伸ばしていく——そのような学びの姿を、これからも大切にしていきたいと考えています。

本年度も、保護者・地域の皆様と力を合わせながら、子どもたちの笑顔と成長があふれる一年を創ってまいります。引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

エコキャップ回収

今年度は天沼中学生のボランティア人数も多数増えて、回収ペースも3か月ごとに行えるようになっていくことになりました。特に後半は、12/19・3/6と2回の回収活動を行い、2台のリアカーが満タンになりました。

生徒さん達のやる気に満ちたパワーに押され地教推としてもしっかりとサポートをしていかなければいけないと改めて感じました。コロナ前のような中学生と地域が繋がる活動にしていけるように盛り上げていきたいと思っています。地域の多くの皆様ご協力ありがとうございました。

エコキャップの受領書

ペットボトルキャップ受領書

回収日時: 2025/2/28

回収量: 20600 Kg

賞金: 103,000 円

ワゴン: 1030 台

CO2: 64890 Kg

回収場所: 9877.10 Km

回収者: 45985 A01

まちの懇談会

2026年3月12日(木)



3月12日(木)天沼中学校体育館にて中学3年生と地域の人々が「だれにも安全でやさしいまち」をテーマに話し合いがもたれました。生徒92名、地域の方々38名が参加し、18グループに分かれて、班長(中学生)を中心に各班で活発に意見が交わされました。決められた時間が足りないと思われるほどの盛り上がりでした。

中学生は、この春から地域を離れ、それぞれの高校へ進学していく生徒たちである。地域の方々は、町会、PTA、民生委員、各団体、行政の方々など、40名弱が参加していた。

出てきた意見はどれも頷けるものばかりで、「自分たちが少し勇気を出して挨拶をすること」「地域の行事やお祭りに関心をもち、心を開いて参加していくこと」などが挙げられています。どの課題も中学生にとってはハードルが高い

かもしれないが、安心でやさしいまちづくりには必要なことではないかと、多くの人が意見に賛同していました。

今、大人たちの社会では、戦争を取り巻くさまざまなニュースなど、目や耳にしたくないような出来事が、この美しい地球の中で起こっています。世界中の人が安全でやさしい地球であることを願っている中で、この小さな地域で人々の幸せな暮らしを願いながら出された意見は、とても素晴らしいものだと感じた集まりでした。

子育て講演会

2026年2月14日(土)

今年度の子育て講演会は2月14日(土)コミュニティふらっと本天沼をお借りして、昨年同様に保健学博士・公認心理師の山川恵子先生をお招きして「中学年からトリセツ・9歳の壁にどう向き合う?」というテーマで講演していただきました。天沼小・沓掛小・天沼中の保護者だけでなく、地域の皆様にもお声がけやチラシの配布をさせていただき幅広くご案内させていただきました。

例年より多数のご参加がありとても好評な講演会となりました。「とてもわかりやすく成長過程のなかで健全な反応なんだと理解ができた」等感想をいただきました。また来年度も思考を凝らして子育て講演会を企画したいと思います。ご協力をいただきました皆様ありがとうございました。



天沼中学校国際交流企画

2025年10月18日(土)

10月18日、天沼中学校体育館にて天中2年生3年生と杉並区交流協会から派遣された14カ国と地域の方々15グループにわかれて、様々なトピックについて話し合う、国際交流企画が行われました。

最初は緊張気味だった中学生も話題がゲームなど身近なものになると積極的に楽しそうに話をしていました。地域や保護者の方々も、グループに加わり、この企画を楽しまれていました。交流協会の方々には天中のあと、天沼小で開催されていたハロウィーンにも参加し、小学生とも交流を持たれました。

SPECIAL ISSUE

MANUMA SMILE NEWS

特別号
2026

令和8年5月発行 問合せ 天沼児童館
天沼中学校区 電話3398-8717
地域教育推進協議会
会長 田中一恵

あまめすマイルニュース

“AMANUMA SMILE COMMITTEE”

AMANUMA JUNIOR HIGH SCHOOL DISTRICT REGIONAL EDUCATION PROMOTION COUNCIL

AMANUMA SMILE NEWS

PUBLISHED IN MAY 2026

安心・安全な通学環境をみんなの手で！ 4年間にわたる『危険箇所マップ調査』



天沼中学校区地域教育推進協議会では、地域の安全意識を高め、子どもたちの安心・安全な通学環境を整える活動を行なっております。

取り組みの一環として、4年間にわたり児童館祭り等で通学路の危険箇所マップ調査を、防犯・防災の専門家である清永奈穂先生に監修いただきながら実施してまいりました。

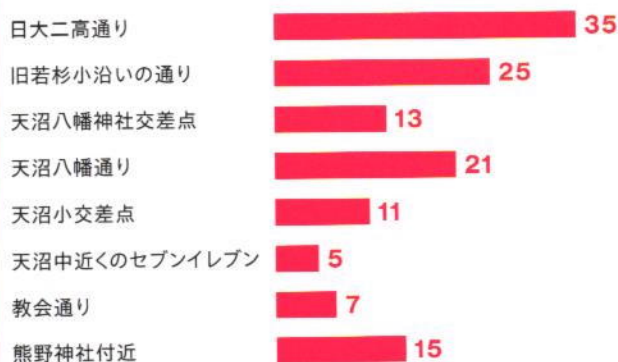
皆さまからいただいたご意見

と調査結果を基に、学校、自治体、警察署と連携し、グリーンベルトの設置や街灯の電球を明るいものに交換するなど、少しずつ安心安全が実現してきました。

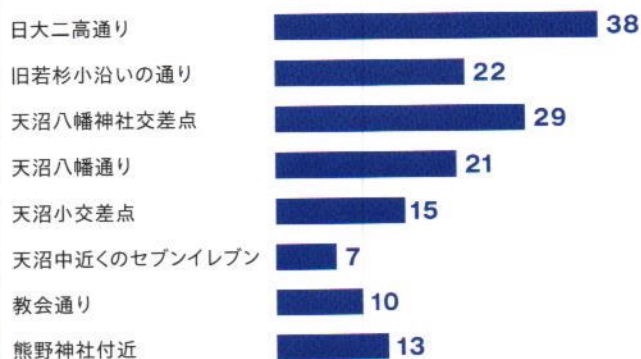
今年度の危険箇所マップ調査では、令和8年4月より導入される自転車の取締り強化を見据え、自転車利用についても併せて調査を行いました。

『危険箇所マップ調査結果』 皆さまご協力ありがとうございました

子どもが「危ない」と感じている場所 回答数：227



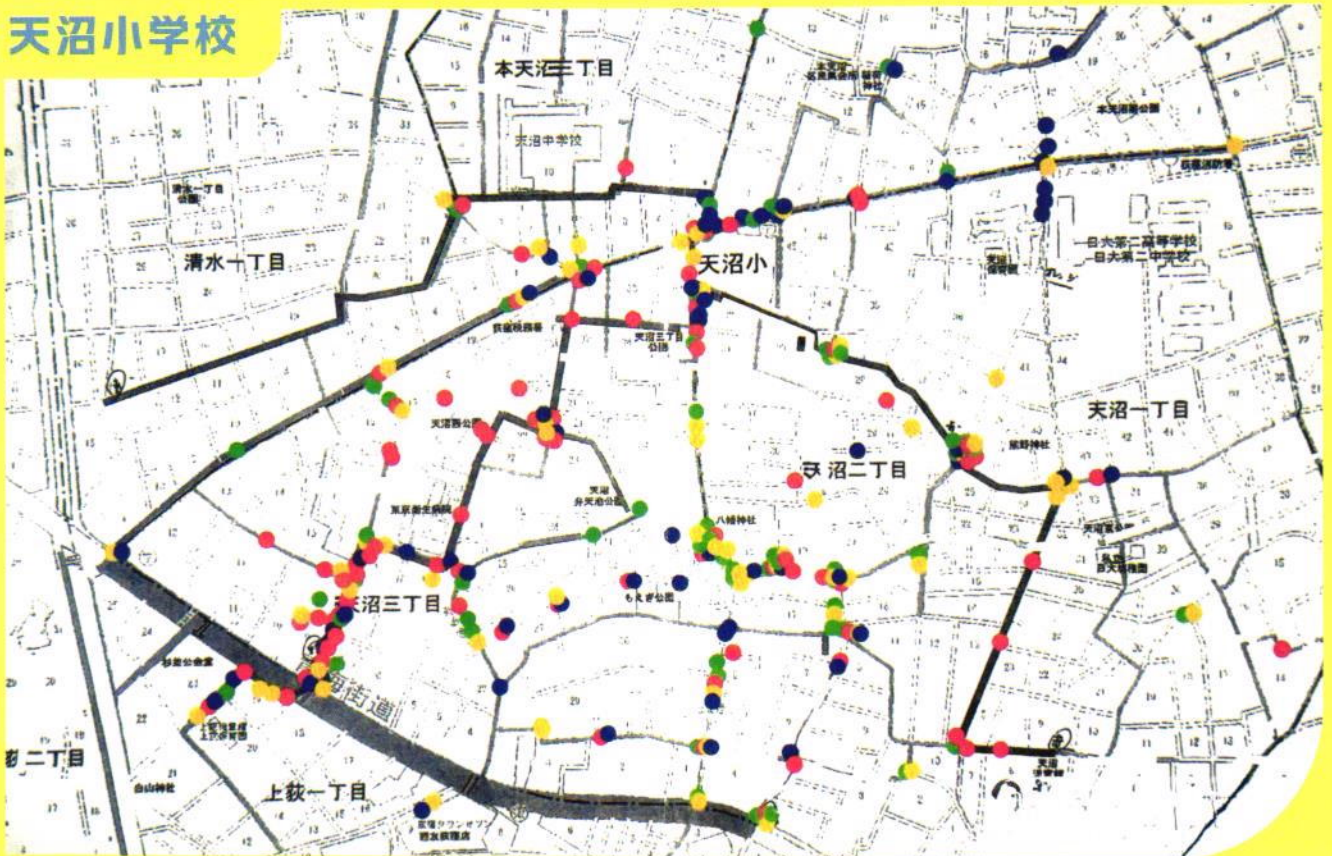
大人が「危ない」と感じている場所 回答数：225



天沼小学校の回答では、学校から児童館(学童クラブ)へ向かう旧若杉小学校から青梅街道へ抜ける道路や天沼小学校付近の通り、指定通学路である熊野神社・元藤の湯付近の交差点について不安を感じるという声が多く寄せられました。一方、天沼中学校の回答では、天沼八幡通りを危険と感じる方が特に多い結果となりました。さらに、両校に共通して多かったのが、日大二高通りと天沼八幡神社の交差点付近です。歩行者・自転車・車が入り混じる複雑な交通環境であることから、毎年継続して不安の声が寄せられている場所です。

●お子さんが自転車利用時に危ないと思う場所 ●お子さんが歩いていて危ないと思う場所 ●大人が自転車利用時に危ないと思う場所 ●大人が危ないと思う場所

天沼小学校



天沼中学校



危険箇所の調査で皆さんより寄せられたご意見

皆さまよりご回答いただいた調査結果は学校・地域・行政・警察と共有し、改善に向けた取り組みにつなげています。



危険箇所に関するご意見

日大二高通り

最も多くのご意見が寄せられたエリアです。

- 道幅が狭く、車・自転車・歩行者がすれ違う際にヒヤッとする場面が多い
- 中高生が横並びで歩き、小学生が車道に出してしまうことがある
- 信号が複数交差しており、動線が複雑で横断が難しい
- ウェルファーム付近では路上駐車やバス停周辺で車がスピードを上げて通過し危険
- 歩道が狭い、またはない区間が多く、車との距離が近くて怖い
- バスを追い越す車と歩行者・自転車が接触しそうになる
- 朝の通学時間帯は人が多く、歩行者が車道にはみ出すことがある
- 植栽や駐車車両が死角をつくり、横断時に車や自転車が見えにくい

旧若杉小から青梅街道への道路

道幅の狭さと見通しの悪さに関する声が多く寄せられました。

- 道幅が非常に狭く、車と歩行者がすれ違う際に危険を感じる
- カーブで車や自転車が曲がってくるのに気づきにくい
- 見通しが悪く、スピードを出す車とぶつかりそうになった経験が複数ある
- 駐車車両が死角をつくり、飛び出しや接触の危険が増している
- 夜間は街灯が少なく暗いため、歩行者が見えにくく不安
- 片側に歩道がなく、子どもがふざけて歩くと車と接触しそう
- 朝は駅に向かう自転車・歩行者のスピードが速く危険
- 青梅街道に入る直前の道で車がスピードを上げて通過し怖い

天沼小学校前交差点

信号の短さや朝の混雑に関する声が目立ちました。

- 信号が短く、小学生や高齢者が渡りきれないことがある
- 朝の通勤通学時は人があふれ、車道にはみ出してしまふ
- 車がスピードを出して右左折してくるため、歩行者が驚く場面がある
- 信号無視や横断歩道で車が止まらないなど、交通ルール違反が多い
- 見通しが良さそうで実は死角が多く、自転車がスピードを緩めず進入してくる
- 信号待ちのスペースが狭く、車との距離が近くて危険
- 横断歩道で自転車が停車中の車の間をすり抜けてくる

天沼八幡神社交差点

見通しの悪さと交通量の多さから、不安の声が多数寄せられました。

- カーブで車や自転車が突然現れてぶつかりそうになる
- 駅方面へ向かう自転車がスピードを落とさず曲がってくる
- 一時停止の標識があるのに、自転車が勢いよく飛び出してくる
- 道路が狭く、人通りも多いため、車・自転車・歩行者が交錯して危険
- 見通しが悪く、減速せずに進入する車が多い
- 自転車同士や自転車と歩行者の接触事故をよく見かける
- 夕方や夜間は暗く、さらに見通しが悪くなる

天沼八幡通り

通勤・通学の時間帯に車両と歩行者が混在し、最も交通量が多い通りです。

- 道幅が狭く、車・自転車・歩行者がすれ違う際に危険を感じる
- 車や自転車の通行量が多く、スピードを出して走ることが多い
- カーブや死角が多く見通しが悪い
- 朝夕は中高生が横並びで歩き、歩きスマホや本を読みながら歩く姿もあり危険
- 店舗前の駐輪や路上駐車で道幅がさらに狭くなり、車が通ると怖い
- 自転車同士や歩行者との接触が起きそうになる場面が多い
- 八幡神社前の三差路はどの方向からも車や自転車が来て横断が難しい

その他

多くの方が危険と感じる箇所だけでなく、見過ごせない“ヒヤリハット”が、たくさん存在します。

- 衛生病院付近は道が狭いのに車のスピードが速く、曲がり角の死角でヒヤッとする
- 教会通りで細い路地から出てきた自転車と“はち合わせ”しそうになる
- 上荻児童館周辺は路上駐車で見通しが悪く、子どもだけの通行が心配
- 弁天池公園付近はカーブが急で車が見えにくく、公園からの飛び出しが危険
- 本天沼南公園周辺は登下校の中高生の自転車が速く、歩行者と接触しそうになる
- もえぎ公園横の道は夜が暗く、人通りが少なく不安
- 稲荷神社周辺は細くて暗く、曲がり角からの車が見えにくい
- 天中近くのセブンイレブンは信号がなく、車が各方向から来て渡りづらい
- ことぶき通りから教会通りに抜ける道は暗く、車のスピードが速くて怖い
- 黄色コース(青梅街道方面)は一時停止無視の自転車が速く、飛び出しが危険
- ドンキホーテ裏の曲がり角は狭く、歩きスマホの人とぶつかりそうになる
- 天沼児童館前は自転車の通行が多く、曲がり角での接触が心配
- 清水の森公園周辺は街灯が少なく、暗くて見通しが悪い
- 天沼中付近の五差路はどこから車や自転車が来るか分かりにくい
- 熊野神社周辺は道が細く、子どもの飛び出しや急な横断が心配
- 日大二高横の道は送迎車の停車で道がふさがり、歩行者・自転車が危険な場面がある

日大二高通り 交通面の改善案

- 歩道が少なく、車との距離が近い“歩道の確保”を望む声が多い
- バス停付近の路上駐車が危険を生むため、取り締まりや改善を求める意見
- 緩やかなカーブが多く、見直し改善のためのミラー設置を希望
- 交通量が多い時間帯は車のスピードが速く、減速を促す対策を求める声
- 中高生の横並び歩行で小学生が車道に出してしまうため、通行マナーの改善を望む
- 信号が少なく、横断が難しい場所に横断歩道や信号設置を求める意見
- バスを追い越す車が危険との声が多く、追い越し禁止や注意喚起を希望



2月18日 天沼中学校で『交通安全出張講座』を実施

「令和7年11月に改正された道路交通法、令和8年4月に導入される自転車の取締り強化で、私たちの自転車利用はどのように変わるの?」という地域の皆さまの疑問にお応えして、2月18日天沼中学校で荻窪警察署による『交通安全出張講座』を開催いたしました。

当日は、50名もの方にご参加いただき、交通安全の他、防犯についても詳しく説明いただきました。

講座では、皆さまにご回答いただいた危険箇所マップ調査の結果を活用し、交通面で不安に思う点や、自転車利用で危険だと思う身近な場所を例にあげ状況をイメージしやすい内容となりました。



『交通安全出張講座』の内容、ぜひご確認ください!

特殊詐欺の最新動向と対策について

近年、電話番号を偽装したり、LINEのビデオ通話を悪用したりと、手口が巧妙化していることが紹介されました。還付金詐欺や訪問詐欺、買取詐欺、ロマンス詐欺など、多様な手口があることを踏まえ、知らない番号には出ないことや、お金の話が出たら一度電話を切って確認することなど、日常生活でできる対策が示されました。また、警視庁の防犯アプリ「デジポリス」の活用や、訪問販売への対応方法など、すぐに実践できる防犯のポイントも共有されました。

4月1日交通反則通告制度導入で変わること

これまで以上に、自転車の悪質・危険な違反に対して反則金が科されるようになることが紹介され、特に信号無視や一時停止違反など、歩行者に危険を及ぼす行為が青切符の対象となることが強調されました。ただし、警察としては“なんでも取り締まる”のではなく、事故防止のための指導・警告が基本であることも丁寧に説明され、参加者の不安を和らげる内容となりました。

歩道での自転車走行はどうなるの

自転車は車道左側通行が原則である一方、13歳未満や70歳以上、身体の不自由な方は歩道走行が認められていること、また危険を感じる場合には大人でも歩道を走行できることなど、状況に応じた柔軟なルールが紹介されました。ただし、歩道はあくまで歩行者優先であり、歩行者に配慮した走行が求められる点が改めて強調されました。

質疑応答 (よくある質問)



参加者からは多くの質問が寄せられました。

Q 小学生を自転車に同乗させてもいいですか?

A 道路交通法上「就学前の児童まで」となっており、小学生の同乗は禁止です

Q 横断歩道は自転車を押して渡るべきですか?

A 自転車に乗ったままの横断は危険行為として指導対象となりますので、自転車は押して渡ってください

Q 親子で自転車並走しても大丈夫ですか?

A 原則は禁止ですが、安全確保を優先し、幼児を見守るための並走は取り締まりの対象としません

Q グリーンベルト(路側帯)は自転車が行けますか?

A 基本は歩行者用で、自転車は車道を走るのが原則となります

Q 環七・青梅街道など大通りが怖いです

A 歩道は歩行者優先とした上で、危険を感じる場合は自転車でも歩道走行可能です。警察官に注意された場合は、危険と感ずる理由を説明してもらえば大丈夫です

これからも安全への取り組みに、ぜひご参加ください

危険箇所マップ調査に寄せられた皆さまの声の積み重ねが、今回の「交通安全出張講座」の開催にもつながりました。地域の安全拠点である天沼中学校に、地域住民と保護者が集まり講座を開催できたことに、大きな意義を感じております。

今後も危険箇所マップ調査や講座を実施する際は、子どもたちが安心して通える地域づくりのため、引き続き協力いただきますようお願いいたします。地教推では、皆さまと一緒に街の安全を考え、地域・学校・行政と連携しながら、子どもたちが安心して暮らせる地域づくりを進めてまいります。